

2011年7月1日

お客様各位

大日本スクリーン製造株式会社
メディアアンドプレジジョンテクノロジーカンパニー
株式会社 メディアテクノロジー・ジャパン
株式会社 エムティサービス東日本
株式会社 エムティサービス西日本

夏季節電運用時にご注意頂きたい点について

拝啓

貴社ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。政府奨励の夏季節電下において室温設定を上げるなど、空調設定を変更される場合における弊社 CTP シリーズ運用時のご留意をご連絡致します。ご賢察・ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

【記】

【室温設定を上げるなど空調設定変更の場合のご留意】

空調設定を変更された際に、以下の点をご留意願います。

1. 設置環境温度が 28 度を超えた場合、ワーニング（警告）が発生します。

弊社 CTP 装置では、本体内に内蔵された温度センサーにより、環境温度を監視しています。本体内部環境温度が、28 度以上となった場合、ワーニング（警告）が操作パネルに表示され、ブザーが鳴動します。

ワーニング（警告）である為、刷版出力中にこの状況が発生しても、装置は出力を継続します。

操作パネルに同時に表示される“OK”ボタンを押下頂き、ワーニング（警告）確認操作を実施することで解除されます。

なお、この場合、出力された版は十分な検版をお勧めします。

2. 環境湿度が高い場合に記録ヘッド内に結露が発生し、エラーが発生することがあります。

空調運転を停止されている等、環境湿度が高い状況下においては、記録ヘッド内のレーザーダイオードの冷却部分にて結露が発生する場合があります。この場合、装置内に内蔵された結露センサーが結露を検出し、エラーが発生します。

特に朝に装置を起動される際は、夜間に CTP 装置内部に侵入した湿気を含んだ空気が空調にて十分に除湿されておらず、結露が発生しやすい状態となっており、起動時にエラーが発生するケースが最も多くなっています。

結露エラーが発生した場合、各装置毎に定められた手順（別紙参照）を実施すると共に、空調運転（ドライを含む冷房空調運転）にて環境湿度を下げる対処を行うことで、比較的早く装置を正常稼働させることが可能となります。

以上

【装置毎の結露エラー発生時の対応方法について】

結露エラー発生時には、機器内蔵のファンにより、装置内に滞留する湿気を含んだ空気を、空調により湿度が下がった空気に入れ替えることが必要です。

PT-R8000、8000 II、8100、8300ES、PT-R8300N-ES
PT-R4000、4000 II、4100、4300、4300ES
PT-R8600、PT-R8600ESZ、PT-R8600N-ESZ
PT-R6600ES、PT-R N2000
PT-R FX870、870 II、1520

- ① 結露エラー発生、パネル操作にてブザーを止めます。
- ② 室内の空調運転を開始して下さい。
- ③ 装置は、電源を OFF せずに、そのまま 20～30 分お待ち願います。
- ④ 一旦、装置の電源を OFF して、再度、ON します。
- ⑤ スタートボタンを押して、初期化を開始頂き、結露エラーが出なければ、装置は動作可能です。
- ⑥ 再び結露エラーが発生した場合は、③～⑤の手順を繰り返して下さい。

PT-R8800、8800 II、8800ESZ、PT-R8800N-ESZ
PT-R16000、16000 II、320000

- ① 結露エラー発生、パネル操作にてブザーを止めます。
- ② 装置とチラーの電源を一旦、OFF します。
- ③ 室内の空調運転を開始して下さい。
- ④ 装置側のみ電源を ON します。(チラーの電源は OFF のままです)
チラーの電源が入っていない旨の警告メッセージが発生しますが、
パネル操作にてブザーを止めて、そのままにしておいて下さい。
- ⑤ そのまま 20～30 分お待ち願います。
- ⑥ 一旦、装置の電源を OFF して、装置とチラーの電源を ON します。
- ⑦ スタートボタンを押して、初期化を開始頂き、結露エラーが出なければ、装置は動作可能です。
- ⑧ 再び結露エラーが発生した場合は、④～⑦の手順を繰り返して下さい。